

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Brighten After School Daizawa		
○保護者評価実施期間	2026年 5月 11日 ～ 2026年 5月 25日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39名	(回答者数) 28名
○従業者評価実施期間	2026年 5月 11日 ～ 2026年 5月 25日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 5月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	レッジョ・エミリアアプローチを療育に取り入れ、児の主体性や創造性を尊重した支援を行っている。児の興味や関心を起点に活動を構成し、遊びの中で自ら遊び、試し、表現する経験を積み重ねている。また、自分の気持ちや考えを表現する力を育てるとともに、他者の考えに触れながら関わる経験を通して、協調性や相互理解の育ちにつなげている。	児の遊びや活動の様子を日常的に観察し、その時々興味や関心の変化を捉えながら活動内容を柔軟に調整している。児が自分で選択できる場面を意図的に設定し、試行錯誤できるような環境構成を行っている。また、活動の中で児の発言や行動に丁寧に応答し、気持ちや考えを受け止めながら、表現につながるような関わりを行っている。	児が自ら選択・決定する機会をより増やし、主体性のさらなる育成を図る。 活動の中で探究的な関わりをより深め、学びの広がりにつなげる。 一人ひとりの特性に応じた提示方法や関わり方の工夫をさらに強化する。
2	ABA（応用行動分析）の視点を活用し、行動の背景や機能を踏まえた支援を行っている。事前の見通し提示など予防的支援を重視し、適切な行動を選択できるよう環境調整や具体的な提示を行っている。また、成功体験の積み重ねにより望ましい行動の定着を図り、問題行動については要因をチームで検討し代替行動の獲得につなげている。	ABC分析（行動の前後関係から要因を整理し、行動の意味を分析する方法）を用いて行動の前後関係を整理し、要因を検証したうえで支援方法を検討している。問題となる行動が起きにくいよう事前の環境調整や関わり方を工夫し、予防的な支援を重視している。また、日々の関わりの中で成功体験を積み重ねられるよう支援し、望ましい行動が定着していくよう配慮している。さらに、支援の内容は職員間で共有し、一定した関わりができるようにしている。	ABC分析（行動の前後関係から要因を整理し、行動の意味を分析する方法）による行動理解と支援の検証をより組織的に行い、事例検討の質を高めていく。職員間で支援手順や関わり方の共通理解を一層深め、どの場面でも一貫した対応ができる体制を強化する。また、予防的支援や成功体験の積み重ねの視点を継続的に振り返り、個別性に応じた支援の精度向上を図る。
3	児一人ひとりの個性や特性を尊重し、その子らしさを受け止める支援を行っている。できている部分や得意なことに着目しながら関わることで、安心して過ごせる環境を整えている。また、小さな成功体験を積み重ねることを大切に、自信や達成感につなげるとともに、個性を伸ばす関わりを通して、自己肯定感の育ちを支えている。	児一人ひとりの得意なことや興味関心に注目し、その子らしさを認めながら関わっている。できたことや取り組みうとした姿をその都度言葉にして伝え、小さな成功体験として積み重ねられるよう支援している。また、安心して挑戦できるよう、活動の難易度や関わり方を児の状態に応じて調整している。	児の強みや個性をより多面的に捉え、成功体験の質と量をさらに高めていく。 日々の関わりの中で自己選択・自己決定の機会を増やし、自信につながる経験を広げていく。 児の変化や成長をより丁寧に共有し、職員間で一貫した関わりができる体制を強化する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者支援および関係機関連携に力を入れたいと考え、日々対応や工夫を重ねているが、すべての保護者様や関係機関に対して十分な対応が行き届いていない現状がある。保護者様からのご相談には丁寧に对应し、ご家庭での支援方法についても助言を行っているが、個別対応にとどまり、全体としての支援の均一化には課題が残っている。また、保護者学習会の開催には至っておらず、体系的な保護者支援の機会が不足している状況である。	日常支援と並行して保護者対応や関係機関連携を行っているため、保護者学習会など体系的な支援を行うための時間の確保が十分とは言えない状況が要因として考えられる。また、保護者様へこちらから積極的に声がけし、気持ちやご意見を丁寧に聞き取ることにしても、十分に行えていない状況がある。	保護者様や関係機関とより連携が取れるよう、日常的に情報共有や調整を行い、必要に応じて電話等も活用しながら関係性を維持していく。また、保護者学習会など体系的な支援については、実施方法や内容を段階的に検討し、実現に向けた準備を進めていく。
2	事故対応、災害時の対応等、各種マニュアルの整備はできているが、研修や訓練も実施しているが、実際に緊急事態が起こった際によりスムーズに対応できるように体制を整える必要があると感じている。	事故対応や災害時対応等の各種マニュアルは整備されており、研修や訓練も定期的に実施している。基本的な対応体制は整っているが、実際の緊急時には状況に応じた判断が必要となるため、より実践的に活用できる体制づくりの向上が課題として考えられる。	緊急時により確実に対応できるよう、研修や訓練については実際の場面を想定した内容を取り入れ、実践力の向上を図っていく必要がある。また、職員間で対応手順の共有を継続的にを行い、どのような状況でも一定の対応ができる体制づくりを進めていく。